

みやこのあとまち歩きマップ

～宮跡西編～



スタンプラリー
シート付き

ここは、都があった場所。
永い歲月、数多くの物語が
積み重なった歴史の上を
あなたはいま歩いています。

山折り



復原事業情報館



平城宮跡資料館



西隆寺跡（ならファミリー他）



西大寺



西大寺八幡神社



秋篠寺

※拝観料金が必要となるスタンプポイントが含まれます。

復原事業情報館

令和4年3月に完成した大極門(南門)の復原工事のようすや技術、第一次大極殿院全体の復原計画をわかりやすく紹介し、復原事業について理解をより深めるための施設です。すでに完成した大極殿と大極門に加え、東西の楼閣、築地回廊、そして内庭広場を、順次整備することが計画されています。完成すれば、朱雀門から大極門を経て内庭広場に入り、大極殿を仰ぎ見るという体験を通して、当時の空間を理解することが可能になります。これらの復原は発掘成果の検討と、現存する当時の建築などを参考に、研究を重ねた結果なし得たもの。遺構の保護、現行の法律や環境条件を精査し、可能な限りの復原を実現させる技術の一つひとつを、建築資材の現物やレプリカ、伝統工具、映像による展示で体験的に学べば、古代建築の楽しみ方がさらに広がります。令和2年にユネスコ無形文化遺産にも登録された本瓦葺や飭金具、縁付金箔製造などの「伝統建築工匠の技」を、存分に味わってください。

住 所 奈良市佐紀町239-3
アクセス 近鉄大和西大寺駅北口から徒歩約20分
公開時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)
休 館 日 2月・4月・7月・11月の第2月曜日(祝日の場合は翌日)、
12月29日～1月1日
入 場 料 無料



復原事業情報館
ホームページ

平城宮跡資料館

奈良文化財研究所(奈文研)の70年に及ぶ、平城宮・京跡発掘調査の最新成果や、考古学・文化財科学の調査方法をわかりやすく展示する施設。こちらは昭和45年、平城宮跡の馬寮(馬を飼育・調教する役所)の跡に建てられました。入口すぐの床一面には、平城京エリアを空撮した現代の奈良の写真がお出迎え。常設展示では、奈文研のシンボルマークにもなっている「隼人の盾」をはじめとする出土品のほか、宮殿内部や役所を再現した実寸大のジオラマなどもあり、当時の貴族や役人の暮らしぶりを垣間見ることができます。また研究室コーナーでは、建築・考古・歴史・地質などの各領域の専門家チームによる最新の研究成果を解説しています。平成19年度から毎年秋に開催している「地下の正倉院展」は、国内で最も多くの木簡を調査・保管する奈文研ならではの展示。実物の木簡(中には国宝・重文指定のものも!)を、数多く見られる貴重な機会として人気があります。

住 所 奈良市佐紀町 247-1
アクセス 近鉄大和西大寺駅北口から徒歩約 15 分
公開時間 9：00 ～ 16：30（入館 16：00 まで）
休 館 日 月曜日（月曜が祝日の場合はその翌日）
12 月 29 日 ～ 1 月 3 日
入 場 料 無料



平城宮跡資料館
ホームページ

西大寺八幡神社

奈良時代に創建され、明治期に神仏分離令が出されるまでは西大寺の鎮守社だった神社。誉田別命・氣長足姫命・玉依姫命を主祭神としてお祀りし、鎮守の森には住吉神社をはじめ、8社の境内社が鎮座しています。境内に拝殿や覆屋が存在せず、室町時代中期に造営された三間社流造の大きな本殿(重文)の全体像をよく見わたすことができる空間構成は、他に類がない珍しいもの。参道には2つの鳥居がありますが、二の鳥居は、小川をまたぐ花崗岩の一体造石橋とともに、境内で最も古い創建当時の建造物とされています。現在は氏子が神主を交代で担い、「愛宕山詣り」などの年中行事、祭祀の運営など、鎮守の文化を絶やすことなく継承に取り組まれています。また左座小屋と右座小屋は本来、社殿から見て左と右にあります。こちらはいつの頃からか左右が逆転したのとか。また提灯に描かれている紋は、左座は「鳩」、右座は「鳥居」と左右の座で異なりますが、その理由はわかっていないそうです。

住 所 奈良市西大寺芝町 2-10
アクセス 近鉄大和西大寺駅南口から徒歩約 10 分
入 場 料 無料



西大寺八幡神社
ホームページ

西隆寺跡（ならファミリー他）

天平神護3(767)年、僧寺の西大寺に対する尼寺として、称徳天皇が造立を命じたのが西隆寺です。現在の近鉄大和西大寺駅北東、約250m四方の範囲に伽藍がありましたが、鎌倉時代に廃絶したと言われ、全容は明らかになっていません。昭和46年以降、開発工事に併せた発掘調査で金堂・塔・回廊・東門・築地塀などが見つかり、今もその痕跡が周辺に遺されています。中でも、ならファミリー北出入口(近鉄百貨店側)を出てすぐのスロープ下には、金堂の回廊(東北隅)の遺構が見られます。さらに建物内1階の北エスカレーター付近の柱に「東門跡」解説パネル、その前の売場床に柱の位置を示す12個の二重丸マークが。他にも、サンワシティ西大寺の入口前に「西隆寺の記憶」パネル、南都銀行西大寺支店の駐車場横に「築地塀跡」解説パネル、前・みずほ銀行西大寺支店裏側の駐車場に「塔跡」の遺構があります※。これらのスポットを巡り、当時の境内をイメージしてみてはいかがでしょうか。

※店舗移転のため、現在「塔跡」の遺構がある駐車場は閉鎖されていますが、柵外から見学することは可能です。

住 所 奈良市西大寺東町 2-4-1（ならファミリー敷地）
アクセス 近鉄大和西大寺駅北口から徒歩約 3 分
開館時間 10:00 ～ 20:00



なぶんけん
ブ ロ グ

秋篠寺

宝亀7(776)年、光仁天皇の勅願により建立された祈願寺で、桓武天皇の時代に伽藍が整備されました。平安末期にそのほとんどを火災で焼失しましたが、境内には今も、土壇や礎石など当時の姿を忍ばせる手がかりが遺されています。南門を抜けると広がる、美しい苔に包まれた庭をさらに進むと本堂(国宝)があります。こちらは、焼失を免れた講堂を鎌倉時代に本堂として修補したものの。その堂内には、本尊である薬師如来像(重文)をはじめ、日光菩薩・月光菩薩像(重文)、十二神将像、不動明王像と地藏菩薩像(重文)、帝釈天像(重文)と伎芸天像(重文)が安置され、すべて間近に拝観することができます。中でも伎芸天の美しさは有名ですが、頭部は創建当時の乾漆、体部は寄木で鎌倉時代の補作。少し首を傾げ、左肩を落とし、腰をひねるその姿は、見る角度によって違う表情を見せてくれます。二つの時代の合作により生まれた「動きのある」仏様は、芸能を司る女神として今も愛されています。

住 所 奈良市秋篠町757
アクセス 近鉄大和西大寺駅北口より奈良交通「押熊」行バスで約6分「秋篠寺」下車すぐ
公開時間 9:30～16:30
入 場 料 500円 ※団体料金設定あり



みやこのあと まち歩きマップ

～宮跡西編～

ここは、都があった場所。
永い歲月、数多くの物語が
積み重なった歴史の上を
あなたはいま歩いています。

Instagramで
『#みやこのあと』をつけて、
歩いた風景を投稿しよう！

- マークの説明
- スタンプラリーポイント
 - レンタサイクル
 - バス停
 - パン屋
 - カフェ
 - お店
 - トイレ
 - コンビニ
 - ホテル
 - 駐車場

秋篠寺
大極門から徒歩約60分
大和西大寺駅からバス約6分

八所御霊神社
秋篠寺旧境内にある神社で、「三間社流造」の本殿は室町時代の造立と言われ、奈良県指定文化財となっています。

奈良競輪場
1950年に開設された県営の競輪場。バンクは直線の短い333mで、ナイター設備もあります。

秋篠川
かつては曲がりくねった川でしたが、平城宮造営にあわせて直線的に付け替えられ、西大寺や唐招提寺の造営時には運河として利用されたそう。

平城駅
1972年に開業した、日本初の2核型大型のショッピングセンター。屋上からは平城宮跡が一望できます。ぜひ、せんとくんと一緒に記念撮影を。

西大寺
西大寺の鎮守社で、古くからその名の通り多くの祭神を祀る神社。大正時代に一神加わり、現在は十六神が祀られています。

西大寺の院
灯籠とお地藏さん
西大寺水利組合 公民館
野神社
写経 美術館
西大寺 八幡神社
大極門から徒歩約45分

西大寺
大極門から徒歩約35分
西大寺石落神社本殿
薬師堂
明治時代に西大寺から移築され、現在は集会所として使用されています。正面左右に江戸時代の十一面観音石仏、観音像が鎮座しています。

西大寺の記憶 案内板 (サンワシティ西大寺前)
ビル建設に伴う調査で見つかった西隆寺の遺構について書かれたパネル。

西隆寺跡 (ならファミリー側)
大極門から徒歩約25分
西隆寺「東門跡」解説パネル
西隆寺「築地堀跡」解説パネル
西大寺駅
南北自由通路
三和西大寺南町ビル
西大寺の境内飛地にある鎮守社。我が国最古の売薬「豊心丹」は、石落神が授与した秘薬に由来するものだから。

平城宮跡 資料館
大極門から徒歩約10分
奈良文化財研究所
二条町2丁目
新大宮駅
中央区朝堂院

元日朝賀の儀式や外国使節との面会など、国のもっとも重要な儀式のために使われていたそう。

第一次大極殿
儀式の際には天皇が出御することもあった。第一次大極殿院の正門。4年余りの復原工事を経て、2022年3月に竣工しました。

大極門 (南門)

おすすめルート(復路)

おすすめルート(往路)

みやと通り

高の原駅

尼ヶ辻駅

近鉄奈良線

近鉄京都線

近鉄橿原線

平城宮跡歴史公園 ホームページ

QRコード